

耕作放棄地の再生利用に向けた取り組み事例紹介

【経緯】

平成21年に藤里町内の耕作放棄地の再生利用に向けた取り組みを推進するため、藤里町耕作放棄地対策協議会が設立されました。

同協議会では、耕作放棄地の解消に向けて受け手とのマッチングに着手し、当該地周辺で木苺に取り組む農家を受け手として、連携をとりながら国の耕作放棄地再生利用緊急交付金を利用した耕作放棄地の再生を進めることになりました。

対象となった耕作放棄地の概要

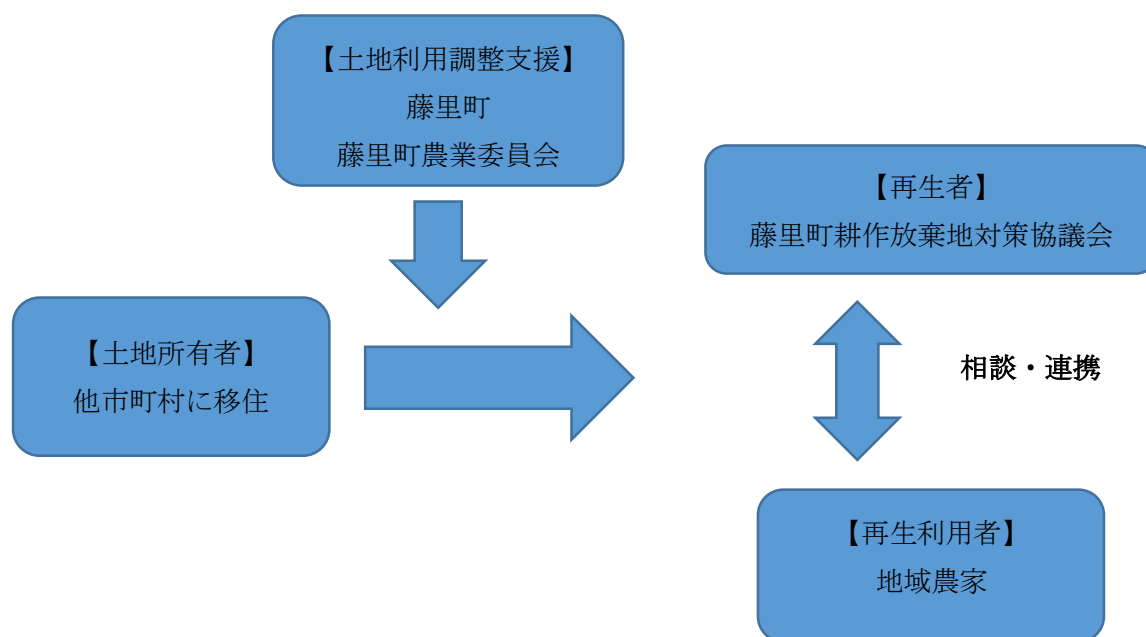
住 所	地 目	面 積
藤里町粕毛字家の後 108	田	19.8 a
耕作放棄地となった理由	所有者が他市町村に転出したことにより耕作できなくなり、借り受ける農家がいなかったことで耕作放棄地となっていた。	
荒廃の程度	雑草・樹木の侵入により原野化した状態	

解消に向けた取り組みと体制

協議会での検討の結果、水稲が中心の粕毛地区において新たな導入作物を検討し、今後の作付面積拡大につなげるため、高収益作物であり当該地区での作付実績のないブラックベリーの実証ほ場を設置することにした。

1年目はほ場再生整備を農家が実施、2年目はブラックベリーの苗木植付けと支柱設置を当協議会が設置した。

【取組体制】



【再生作業】

平成 21 年再生作業着手

1 年目は雑草及び樹木の伐採・伐根・石等の撤去と土壌改良を実施しました。



耕作放棄地着工前



草刈



伐根除去



深耕作業



石等撤去



ほ場再生完了

【実証圃場】

再生した圃場において、平成 22 年にブラックベリーの植え付けを行なった。



ブラックベリー植付け



ブラックベリー支柱設置



草刈の実施

【事業費】

平成21年度は、再生農地内に自生した雑木の伐採や伐根・石撤去と土壌改良に係る経費を支出しました。

平成22年度はブラックベリーの栽培講習会の開催とブラックベリーの苗木と支柱、植付けに係る経費を支出しました。

実証ほ事業費

年度	事業費 (円)	主な作業内容
21	175,000	再生作業経費 草刈・伐根・深耕作業、堆肥敷込作業、堆肥代
22	688,496	実証ほ場経費 ブラックベリー苗木、支柱 栽培講習会経費、苗木植付作業費
計	863,496	